

# 暖地型牧草栽培のポイント

〈耕起・整地〉 種子が微細なため耕起後の整地をていねいに行うこと。イタリアンライグラスの後地ではプラウで反転し、その後ロータリーを浅く2～3回かけ碎土整地する。

〈播種時期〉 平均気温が15℃に達したところを目安にする。

〈播種量〉 10 a 当り1.5～2.0kg。

〈播種方法〉 種子が小さくて軽く風に飛散しやすいため、播きむらを起しやすいので注意する。特にローズグラスは飛散しやすいので、播種直前に種子を水で湿らせ、3～4倍の細土と揉み合わせて播種すると良い。

播種後、柴ハローやレーキ等を用いて0.5～1.0cmをめどに土中に混入し、必ずローラで強く鎮圧する。

〈施肥と刈取〉 基肥 チッソ6～8，リンサン20，カリ6～8 kg/10a。  
追肥（2～3葉期及び各刈取ごと）  
チッソ8～10，カリ6～8 kg/10a。

暖地型牧草は種子が小さく肥料やけを起しやすいので基肥のチッソは少なめとし2～3葉期に追肥すると良い。

刈取りは、草丈80～100cmを目安に刈取り、7～10cmの刈株高とする。刈遅れや低刈りは再生不良の原因となるので注意する。

〈雑草対策〉 雑草の多いところでは、2～3週間前から播種準備をしておき、2～3回地表面を軽く耕すか、暖地型牧草播種前か播種後2日以内にグラモキソンを散布し、先に出芽している雑草を枯殺する。

生育期に広葉雑草が多発したときは掃除刈りをするか、2・4-DやMCPといった選択性の除草剤を散布する。

〈休眠打破〉 グリーンパニック，カラードギニアグラスは休眠性をもっているため、発芽率が一般に低いですが、ジベレリン処理による休眠打破によって発芽率を約2倍に向上することができます。種子添付の薬剤・説明書をお役立て下さい。